

# 31E13-pm02S

バン格拉デシュ産薬用植物に関する研究 (3) —*Azadirachta indica* の成分研究 (2)—  
○栗本 慎一郎<sup>1</sup>, 柏田 良樹<sup>1</sup>, 高石 喜久<sup>1</sup>(<sup>1</sup>徳島大薬)

【目的】センダン科 *Azadirachta indica* はアジア, アフリカなどの熱帯地域に広く分布する常緑樹であり, インド伝統医学のアーユルヴェーダにおいて駆虫, 糖尿病, マラリア, 皮膚疾患, 血液疾患等様々な疾病の治療に用いられてきた. 演者は医薬品シード探索研究の一環として本植物果実の成分研究に着手した.

【方法・結果】本植物の乾燥果実 (2.5 kg) を MeOH で冷浸抽出し, 得られた MeOH エキスの EtOAc 可溶部を各種クロマトグラフィーで繰り返し分離・精製し, 1 種の新規骨格を有するトリテルペン及び 4 種の新規 tirucallane 型トリテルペノイドを単離した. 単離した化合物の構造は各種スペクトルデータの詳細な解析により決定した. 化合物 1 は Me-19 が 9 位に転位し, 5 位 10 位間に二重結合が形成された新規骨格を有しており, tirucallane 型トリテルペノイドから生成すると推定される. 単離した化合物の側鎖の立体配置及び生物活性については現在検討中である.

